

南小たば風通信 2019

令和元年9月30日 第19号

道徳教育指導者講習で8月19日～21日の三日間、行ってきました。北海道・東北ブロック（北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島・いわき市・福島市・札幌市）で小学校～高等学校の教頭・教員と指導主事・大学院生が142名出席していました。このうち、北海道の教員は、17名。残念ながら、仲良くなれる時間はありませんでした。前置きは、さておき、研修に行ってきたので、報告をします。10コマの研修の中から厳選して、直接授業に関わるものをとすることで、以下の研修を報告します。研修資料も一緒に配布します。植田先生は、資料をもとに話されていましたが、私がまとめたところは、植田先生が特に重点を置いて話されていたところです。お話の中には、資料には載っていないところもあります。そこにも注目です！（稲船）

8月20日（火）

《用務の場所》秋田県 パーティーギャラリーイヤタカ

《内容》講義（小・中①）『特別の教科道徳』の充実に向けて P88～

講師 香川大学教職大学院 教授 植田 和也

具体的な授業改善について

- ・なぜ？どうして？が自然におこる授業を大切にしていく。
- ・考えることの楽しさを様々な教材で見つめ直してほしい。
- ・中学校では、保護者からの質問で、「道徳は内申書に関係あるのか？」と聞かれることがよくある。保護者からの不安、児童の不安を学校便りや道徳通信などで情報発信をしていくことが大切だと思う。
- ・先生方の不安などをキャッチし「道徳の推進を何からできるのか？」というところを原点に戻って考えていく。→大切にしたいことはみんなが一つの話題で考え合い語り合う時間をもつこと

授業の課題を再確認、めざす授業にするために（P89～）

(1) 答申や報告等から、授業に関する指摘

- ・35時間の量的確保、質的充実、改善(転換)、学校間格差、教師間格差などがあげられる。

改善方法としては・・・

- ・解説 小学校20ページ、中学校17ページ 道徳の目標を確認しましょう。
- ・解説の内容項目の概要と指導の要点をしっかりと読み込むこと。
- ・授業の内容と照らし合わせて内容項目の概要をとらえてほしい。

(2) めざす授業像は (P89～)

《道徳の授業改善をする》

- ・自分の授業の課題を意識することが大事。

- ある学校では、付箋紙に書いて、授業の改善点を仲間分けして見ている。見せている。
- 目指すところは、解説に書いているような授業などであるが、同じ授業をするにしても金太郎あめのようにはいけない。「目の前の子供たちにこういう風にしたい」「クラスの実態からこういう授業をしたい」というふうに考えていくことが大事である。

★目指す授業を考えると、現在の自分の授業における課題は何を考える。
→その課題を受けて、日々の授業でより意識していきたいことは何か？を考えて授業改善をする。

研修などの時間のない中で、道徳の授業を交流する場合～ある学校での実践～

- 年に二回の交流を行う。
- 課題を意識する。(自分の授業の課題を意識する)
- 会議室などに板書を掲示する。
- 最近、校内研修はだいたい「外国語」にシフトしているが・・・30分～1時間の時間を使いながら、振り返る。
- OJT を意識する。日々の中で、「どうつなげていくのか？」を考える。

《授業課題》自分の授業を振り返る (P90～)

- ① 授業中にしゃべりすぎているだろうか。発問、指示、助言などが繰り返されるなど。
- ② 子供の発言に傾聴できているだろうか。(こちらが求めていることだけに反応するなど×)
- ③ 思考ツールになっていないだろうか。教材の中で～にしたいから、思考ツールを用いるなどということを実践者の先生が明確にしていきたい。

授業者が自らの授業の課題を意識する

「本時の中心発問や活動に対する教師の意図や思いは明確にあったのだろうか。」

「一人で考える時間も確保されているのだろうか。」など

自らの授業の課題を意識することから授業改善の一步を行うことが大事。

(P91～)

解説 特別の教科 道徳 小P116 中P118 授業に対する評価・工夫も参考にする

②学習過程や指導方法における傾向をつかむ

「録音」や「授業を振り返る」ことは、今まで気づけなかった傾向や状況に応じた適切な対応の仕方などに気づくことにもなる。

○道徳科における授業者自身の主観的な評価や見方と客観的な見方

- 主観を磨くためにも客観的な記録や客観的なデータも参考にしてほしい。
- 参観者は、他人事ではなく自分ごととして授業に参加してほしい。

○自分の授業を常にモニタリングする力・授業をコントロールする力が必要

- 良かった点や改善点を自分で気づき、人にも伝えられるようにする。
- 動線図・・・机間指導→児童への関わり、個への対応
- 逐語録・・・発言内容や価値のとらえ方、深まり方
 - *子どもの発言をまつ（意見がまとまらない子、上手に言えない子）ことも大切
- シャベリすぎ・・・P103 S-T分析 ビデオをつかう
 - ※S-T分析は、インターネットにもアップされているのですぐに実施できる。30秒くらいを調べる。授業の理想と現実のズレへの気づきになる。
- 映像を通して、授業を振り返る。
- 児童のノート、表現物、アンケートなどから参加者の声をもとに振り返る。
- 客観的な記録の分析として考える。
- 中学校では学年があがるにつれて、道徳が好きと答える割合が大きい。好きと答える児童らの多くは、道徳科の授業の内容を自己の問題とつなげている。授業の中で自己を見つめる時間を作ることが大切である。子供に行うアンケートが欲しい場合は、近くの大学の先生に相談すると簡単に用紙ができる。相関図なども作ってもらえる。授業改善に役立ててほしい。

授業改善の視点を確認し、解説を読み理解の深化 (P91～)

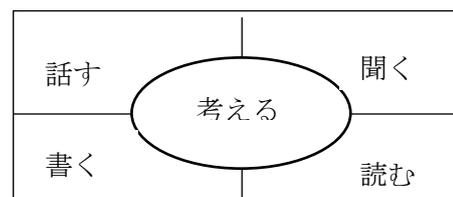
① 道徳科に生かす指導方法の工夫 (小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳より)

- ア 教材を提示する工夫
- イ 発問の工夫
- ウ 話し合いの工夫
- エ 書く活動の工夫
- オ 動作化、役割演技等の表現活動の工夫
- カ 板書を生かす工夫
- キ 説話の工夫

Q ア～キについて一番悩むものはどれですか？
 一番多いものは、イの発問については、99%です。
 「どのように発問をすれば、授業改善に生かせるのか？」
 という質問が多いです。
 二番目は、ウ 話し合いの工夫です。

P92～

ウ 話し合いの工夫



• 話す・書くは output 聞く・読むは input が 絡み合いながら道徳の授業以外でも話しあうという活動が大事。

- 上手な聞き手がいると、上手な話し手が育つ。
- 一言感想を言い合う。

(感想：いいね！ 同意：よく似ていて・・・だ。発見：そうか、すごいね。質問：・・・なの？)

- 拳手はしなくても意思表示カードを用意しい、もたせて理由をきくこともできる。
- コの字型など、座席の工夫など

p93、または、参照別紙4 発達障害などのある児童生徒に対する道徳科の指導について

①道徳科の学習指導過程や指導方法に関する評価の観点

「力 特に配慮を要する生徒に適切に対応していたか」について

解説の文章にも着目してほしい

「発言が多くない児童や考えたことを文章に記述することが苦手な児童、そういったことに対してどのように支援したらいいのだろうか？」

・教師や他の児童の発言に聞き入ったり考えを深めようとしていたりする姿に着目する。うなずくなど。それをどのように授業中にみとっていくのか？が大事。考えがまとまらない。

特別支援の取り組みなども参考にしながら考えていく（P98 参照）

- ・掲示で残したりするなどの方法。（短期記憶が苦手などの児童に対する配慮）
- ・まだ、考えていません。などの意思表示をさせる。顔文字などを使っている学校もある。
- ・支援が必要な児童への授業の受けさせ方を考える。

3 質の高い道徳科の授業づくりのために大切にしてほしいこと（P94～）

- ・ほかの教科の教材研究などで時間がない時に、してほしいことは・・・
- ・2回 教材を読むこと。一回目は、声に出して読むこと。そのなかで中心発問、中心場面、中心価値をしっかりと把握すること。

(1)問題意識をもつ

- ・授業の始まりにアンケートを取るなどして問題意識を持たせ、それを「めあて」にどうつなげていくのかを考える。
- ・授業でぞうきんが落ちている写真を提示して→拾った方がよいに決まっているが→拾えないのはどうしてなのか？と自分自身の生活の様子を振り返って、必要な心は何なのかを考える授業などもある。
- ・「めあて」を考えることに時間をとることも大事。

(2)話し合う語り合う活動の充実・・・児童同士の対話（P94～）

- ・一つ目は授業の山場を子供の姿でイメージできるのか
中心発問のやりとりをイメージできるのかということである
そのために何をしていく必要があるのかということを話し合うことが大事
- ・交流する前の教師の指示、条件などの明確さ
どんなことをするのか、広げるのか、まとめるのか
- ・言葉を通じた多面的・多角的な理解は大切であるが、そのことが分かったのかという心の交流が大切である。
グループの中で聴いている反応することが大事（相手を見る。顔を上げて話す。聴く、反応する。うなずく、相づちをうつ等の反応が大切）
良い話し合いができるのは聴き手がいるからである。良い聞き手が良い話し手を育てる。

(P95~96)

○小学校高学年、中学生なりのクリティカルシンキング(批判的な思考)

本当にそうかな? 本当にそれが大事だろうか? もし~なら、どうだろう? など

・自分の内面に向かう時間が大切。

○ホワイトボードの活用をし、それをもとに話し合う。

○机間指導で何を見取ろうとするのか? が大事

○児童の発言に対する周囲の反応や表情などへの注視

・教師は、A が発言したときのB の反応を見て、子どもと子どもをつなげていく

○相互評価で話し合いが活発になった例もある。

○板書を学びの振り返りに生かす。(板書を静かにみて、ふりかえりに生かす)

短時間でできる 道徳の授業改善について (P100~)

30分で校内研修p100~集まらずに目に触れるところに貼っておく。

1番は、まずは、教材を読み、分析してみる。

2番から、みんなで集まって話し合う→解説を開きながら

3番は、考えた中心発問に対して予想される児童生徒の反応を考える。



★自分のクラスで、タイプが違う三名の子供について、子供の言葉で、考えてみる。

・一人目は、たくさんしゃべる子。

・二人目は、積極的にしたいけど当てたら反応してくれる子

・三人目は、しゃべるのも書くのも精いっぱいの子

*もし必要であれば問い返しなどの補助発問も書いてみる。

進め方

・目に見えるようにすることが大切であるので、考えたことを書いてみるのが大切である。

・研修は時間厳守。きっかり時間通りにやめましょう。途中であっても、30分でやめる。

その他の例

・板書を想定して授業構想をするやり方。

A3用紙など、マジックを用意してから行いましょう。

・頭の中で板書を計画することが大事である。

・同じ授業をしたら、終わった後に、他の先生が書いたものと比較することもできる。

*道徳ラボ・函館ラボなどもある。